



小笠原村立小笠原中学校 学校だより

令和3年9月7日 第5号
小笠原村立小笠原中学校
校長 小野満 賢

学校ホームページ
<http://www.ogachu.que.ne.jp/>



学校フェイスブック
<https://www.facebook.com/ogasawara.jhs>



弱さと向き合う

校長 小野満 賢



この夏、小笠原中と母島中との合同サッカーチームは、都大会（東京都中学校総合体育大会兼東京都中学校サッカー選手権大会）で悲願であった連勝をし、ベスト16入りという快挙を成し遂げました。過去に何度か島嶼大会で優勝し、都大会に駒を進めたことはあったのですが、その先の壁は厚く、9年前の2012（平成24）年に1回戦を突破したのが最初で最後の勝利でした。「連勝」はそれ以来の悲願だったわけです。東京都の中学校は地域ごとに11のブロックに分けられます。都大会に出場するには、加盟する700余りの中学校の全てとまではいきませんが、それに近い出場校の中からブロック内での熾烈な予選を勝ち抜かなければなりません。どの学校もまずは都大会出場を目指し、総力を挙げて臨めます。私も幾つかの部活動の顧問をしましたが、都大会に出場することだけでも大変なことですし、その中で勝ち進むということはかなり難しいことです。

4回目の緊急事態宣言が発出される厳しい状況の中、大会に向けて出島する生徒たちを見送った時は、コロナに感染することなく、とにかく無事に帰ってきて欲しいとそれだけを願っていたのですが、日々届く朗報に心を躍らせ、次に対戦する学校のリサーチまでして、生徒たちの健闘を祈っている自分がありました。多くの保護者や島民の方々も同じ気持ちだったに違いありません。島の情報網は意外なまでにしっかりと張り巡らされており、さまざまな場所で、多くの方からサッカー部の活躍について声を掛けられたのは驚きでした。

私は、凱旋した顧問に、本校のサッカー部の『弱点』は何だったかを尋ねました。顧問は「意識の差です」と答えました。チームの中でサッカーに対する考え方や価値観に違いがあり、大会に向けてのモチベーションの差が最初はとても大きく、それに戸惑っている生徒もいたそうです。しかし、気持ちをひとつにして試合に臨まなければ勝てないと感じた3年生が中心となり、全員で何度も話し合って徐々にひとつになっていったと言います。大会中はサブメンバーも含め全員が「勝ちたい」という気持ちを共有している様子が見られ、顧問から見ても「ONE TEAM」だと感じたそうです。また、「決定力」の低さも弱点として挙げていました。ボールを支配して攻めていても最後の詰めが甘く、ゴールを奪えずに悔しい思いをした事が度々あったことから、これも集中して練習し、克服していったそうです。今回全4試合で9得点したことを考えると、練習したことがしっかりと成果となって表れたと言えるでしょう。

自分の弱点は、誰もが目を背けたくなるけれど、成長するためにはそれに向き合うことが大事です。

1学期の終業式で、私はこんな話をしました。もちろん長所や得意なものを極めれば、弱点を補うことができるかもしれませんが、例えば本校の部活動にもあるバレーボールやバドミントン、テニス等のスポーツで、「レシーブ」が苦手だったとすれば、それに向き合い、少しでも克服する努力をしない限り、どんなにサーブやラリーの技術を磨いたとしても試合に勝つことは難しいでしょう。数学で「正負の計算」が苦手であったなら、そこを集中的にできるようになるまで練習するしかありません。そこをクリアすれば、勝機も、学習の幅も広がっていくのだと思います。多くのことの土台となる部分や基本となる考え方を学んでいる中学生が、苦手なことに蓋をしてその場をやり過ぎたり、「できなくてもいいや」と努力することすらやめてしまったりすることは、多くの可能性の芽を摘んでしまっているのだと思います。少し褒め過ぎかもしれませんが、自分たちの「弱さ」と向き合い、全員でそれを克服しようと努力を重ねたことが、サッカー部のこの夏の快進撃に繋がったのだと私は思っています。

一方、小笠原村は、8月の早い段階で、独自の緊急事態宣言である「コロナウイルス一掃期間の設定」

という思い切った策を打ち出しました。昨日までの2週間、観光客の渡航を徹底的に抑えるとともに、帰島した島民へは強い行動制限を行い、学校も臨時休業にしました。また一方で、観光客のキャンセル等に伴う損失への支援策として補正予算措置を行うなど、単なる協力要請ではなく、島民の安心な暮らしを絶対に守るという村の強い決意を示しました。この強力な施策は、唯一の交通機関である船便が週に1度しかないことや、小さい自治体で事業所もさして多くないという、誤解を恐れずに言えば、小笠原の「弱さ」を逆手に取ったものです。交通の手段が多様で便（べん）が至極よい場所や、所帯の大きい自治体ではなかなか難しいことであることは間違いないでしょう。

弱点は誰にでもあります。まずは目を背けず、その弱さとしっかりと向き合うことが大事なのではないでしょうか。

遠泳大会

保健体育科 麻生 直人

今年度も遠泳大会が予定どおり実施されました。「1時間かけて1kmをみんなで泳ぐ」ことを目標として海練習から準備を行ってきました。本番前にもう一度心構えの確認をしてスタートを待ちました。

今年は、不安に感じている生徒や余裕な表情でうきうきしている生徒など、それぞれにいろいろな心境の中でスタートを迎えました。それでも、バディでお互いに励まし合うことで自分の心のバランスを取り、ゴールを目指しました。そして、1人の脱落者もなく全員完泳し、「1時間かけて1kmをみんなで泳ぐ」という目標も達成できました。澄み切った青い空の下、透き通った海の中で、参加者全員で達成感のある遠泳大会とすることができました。

今回の遠泳大会が和やかな雰囲気の中、なんとか最後までみんなが泳ぎ切れたのは、ご多用の中にもかかわらず、ご参加・ご協力くださいました多くの皆様のおかげです。保護者の方々、地域の方々、小笠原支庁、小笠原島漁業協同組合、海上自衛隊父島基地分遣隊、警視庁小笠原警察署、海上保安庁小笠原海上保安署、小笠原海運父島営業所、小笠原観光協会、小笠原村診療所、小笠原スクーバダイビング安全対策協議会など、たくさんのご協力をいただきました皆様に、この場を借りて改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



セーフティ教室

生活指導部安全指導担当 小林 政輝



7月14日(水)に「生徒の日常生活での安全意識を高め、非行行為を予防し、犯罪などに巻き込まれないための対策を学習する」ことを目的とし、小笠原警察署から署員の方が2名来校され、セーフティ教室を行いました。スライドを用いた説明を聞いたり、映像を見たりしながら、インターネットの正しい使い方や薬物の危険性などについて学びました。生徒たちは、警察の方の話を真剣に聞いていました。犯罪に巻き込まれないためには、どうしたらよいかしっかりと勉強し、危険回避能力を高めることができました。

社会科 租税教室

社会科 矢代 祥大

7月12日(月)の2・3校時に3年生で租税教室が行われました。東京税理士会芝支部の税理士の先生にお越しいただき、お話ししていただきました。「税は何に使われているのか」、「税の種類はどのようなものがあるのか」、「日本の財政状況」といった税に関する基礎的なことから始まり、「どのように

税を集めるのが公平か」までを考えた授業でした。中学生には、年間一人あたり100万円の税が使われているなど、身近な例から税について学ぶことができました。中学生といえども、すでに消費税は払っています。これから年齢を重ねるごとに支払う税も増えていきます。「自分たちが支払った税がどのように使われているのかを知ること」、「税を通してどのような社会を目指していくのかを考えること」がとても重要になってきます。

バレーボール部 遠征報告

「全力排球 みんなでボールに想いをのせて」

バレーボール部顧問 小林 政輝 高部 みなみ

バレーボール部は島嶼大会優勝を目標に日々の練習に励んできました。二見港船客待合所で多くの方々から応援され、多くの方々の想いを背負って遠征へ出発しました。

今年は母島中学校との合同チームで出場しました。結果は対八丈合同(0-2)、対神津中(2-0)、対三宅中(2-1)で準優勝でした。優勝という目標を達成することはできませんでしたが、2大会ぶりに都大会に進出することができました。都大会では、国分寺五中に0-2で負けてしまいましたが、全員が最後まで楽しもうとプレーしていました。都大会進出という結果もさることながら、スローガンである「全力排球」を胸に、最後の1球がコートに落ちるまで全力でボールを追いかけている姿が印象的でした。今回の遠征を通して、日々の練習の大切さだけでなく、仲間との心のつながりを実感することができたと思います。

最後に、日々の練習でご協力していただいた卒業生や地域の方々、お忙しい中、島嶼会館に応援に駆けつけてくださった三枝さん、横野さん、内地でご協力いただきました北区立王子桜中学校、新宿区立市谷小学校、葛飾区立新宿中学校、東京成徳高等学校、駿台学園中学校、そして、最後まで声援を送り続けてくださった保護者の皆様、この場を借りてお礼申し上げます。今後ともご協力よろしくお願いいたします。



バドミントン部 遠征報告

バドミントン部顧問 野内 由紀子 佐々木 若葉

バドミントン部は7月9日(金)に無事遠征の全行程を終えました。大会前の合同練習では、感染症対策で自校の練習も大変な状況の中、快く受け入れてくださった学校の皆様のお陰で、充実した練習ができました。他校の先生方からお話を伺う中で、この大会開催のために多くの人が強い思いをもって選手たちを会場に送り出してくれたことが分かりました。試合当日、一昨年よりもはるかに少ない人数に制限された会場は、参加者の熱気以上に、ここに来られなかった人々の大会に懸ける思いに満ちているように見えました。出場したシングルス1名とダブルス4組は、結果は残念ながら敗退したものの、生徒たちの目の輝きと心境の変化、技術力の向上、そして取り組む姿勢の成長から、同じ競技に取り組む中学生



から学んだことの大きさが伝わってきました。今回の遠征で2週間家を離れるという経験は、生徒にとって様々な気づきを得る旅でもありました。住み慣れた場所では気付かなかった大切なもの。当たり前過ぎていく日々の中に、どれだけ多くの方が自分を支えてくれたかということ。生徒たちはご家族や友達と離れて生活する中で、改めて故郷の良さに気づき、心身共に大きくなって島に帰ることができました。保護者・地域の皆様にご多大なるご理解・ご協力をいただき、無事遠征を終了できましたことを深く感謝申し上げます。

サッカー部 遠征報告

「感謝～みんなの想いを力に変えて～」

サッカー部顧問 麻生 直人 高田 奈々

今年度の遠征では、小笠原・母島中学校サッカー部は島嶼大会優勝にとどまらず、先輩たちの代からずっと目標に掲げてきた『都大会連勝』を達成し、都大会ベスト16という快挙を成し遂げることができました。今回の結果に至るまでには、本当にたくさんの方の「想い」があり、その全ての「想い」が選手たちの力となり、背中を押してくれました。どの試合も本当に感動的で、胸が熱くなるゲームでした。今回の結果は、我々サッカー部のメンバーだけでなく、「小笠原村」が一丸となって勝ち取った結果だと考えています。これまでにサッカー部の活動に関わってくださった全ての方々、応援してくださった方々、またこのコロナ禍の中でも大会を運営してくださった中体連サッカー専門部の方々など、全ての人に感謝をお伝えしたいです。

本当にありがとうございました。今後も小笠原中学校サッカー部をよろしく願いいたします。

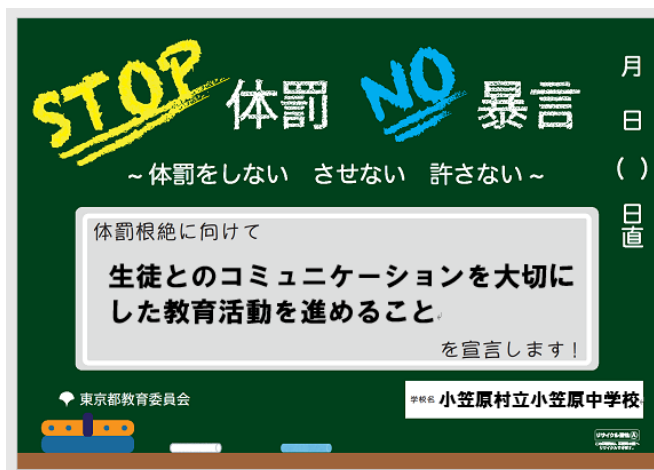


9月の行事予定

- 5日(日) ニュース検定
- 7日(火) 始業式 安全指導 自転車安全点検
- 8日(水) 運動会練習 職員会議
- 9日(木) SC勤務
- 10日(金) 運動会練習
- 13日(月) 学校朝礼 教育実習始
- 14日(火) 食育講話 運動会練習
- 15日(水) 芝生の日 都学力調査
- 16日(木) 運動会合同練習
- 17日(金) 避難訓練 各種委員会 中央委員会
- 18日(土) 土曜授業日 島しょ研修会
※1・3年は4校時まで昼食なし
2年は5校時まで昼食あり
- 20日(月) 敬老の日
- 21日(火) 運動会予行
- 22日(水) 運動会練習
- 23日(木) 秋分の日
- 24日(金) お弁当の日 運動会練習
- 25日(土) 土曜授業日 運動会準備
※6校時まで昼食あり
- 26日(日) 小中高連合運動会
※詳細は別紙「お知らせ」参照
- 27日(月) 振替休業日
- 28日(火) 振替休業日
- 29日(水) 学校朝礼 生徒会役員選挙
- 30日(木) SC勤務 後期学級組織決め

体罰根絶宣言

東京都教育委員会では7月1日から8月31日を「体罰防止月間」とし、本校でも全教職員を対象に改めて体罰防止の校内研修を実施いたしました。今後も子ども一人一人の人権を大切にしたい教育活動を進め、全教職員が一丸となって「体罰によらない、対話による教育」を推進していきます。



感染症対策の徹底と 今後の対応について

本日配付しました「小笠原村コロナウイルス一掃期間後の学校の対応について」及び「ほけんだより」の印刷物をご確認ください。ご家庭におかれましてもご協力をよろしくお願いいたします。